

平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

| | | | | | |
|-----|-----------|------|-------|----------|-------|
| 学校名 | 尾道市立栗原中学校 | 校長氏名 | 宮里 浩寧 | 生徒指導主事氏名 | 川井 和郎 |
|-----|-----------|------|-------|----------|-------|

取組事例名 『行事における主体的な取組の場の設定』

取組のねらい『キーワード 主体的な取組』

生徒が主体的に取り組む場を設定することにより、3年生のリーダーシップを育て、自己肯定感を高めるとともに、栗原中学校の新たな伝統を創造する。

取組の具体的内容『キーワード 3年生のリーダーシップ』

- ・ 体育大会の縦割りチームの取組において、それぞれのチームのアピールの時間（応援合戦）を設定した。内容については各チームの3年生が中心となって考え、1・2年生に指導した。
- ・ 文化祭において、3年生が自分のクラスのアピールをする時間を新たに設定した。
- ・ オリジナルマスコットキャラクターを作成した。

取組の課題・創意工夫『キーワード 条件の設定（教員の指導）』

課題

- ・ 取組に向けての時間の確保

創意工夫

- ・ 体育大会の応援合戦の取組においては、各チームのリーダーが集合する時間を毎日設定し、担当教員とともに進捗状況を確認し合い、時間・練習・内容についての条件を統一した。
- ・ 文化祭のアピールタイムについては、あらかじめ時間や内容についての条件を設定し、その中で各学級の担任・生徒が考え、取組を進めた。

取組の成果（効果）『キーワード 達成感』

- ・ 体育大会の応援合戦の取組を通して、3年生が1・2年生を引っ張っていかこうとする姿が見られた。また、体育大会後の1・2年生の感想には、3年生への感謝の言葉、賞賛の言葉、自分たちが3年生になった時の見通しが書かれていた。



- ・ 文化祭でのアピールタイムでは各学級の創意工夫が見られた。これまでの学級の取組を振り返ったり、担任・クラスメート・保護者などへの感謝の気持ちを表したり、それぞれの学級のカラーを活かして表現していた。また、それらの発表を1・2年生が真剣に見ていた。



今後の展開『キーワード 生徒会のさらなる活性化』

- ・今年度の体育大会と文化祭の取組のきっかけは、生徒会執行部の強い要望であった。これらの取組を通して、生徒会執行部をはじめとする3年生はリーダーとして大きな達成感を得ることができた。これらの取組を見てきた新生徒会執行部では、行事だけでなく、日頃の生活の場面においても、主体的な取組の場を設定していく。

他校へのアドバイス『キーワード 教職員の関わり』

- ・生徒の好きなようにさせるのではなく、条件を設定して、その中で考えさせることにより、生徒自身の創意工夫が生まれると考える。
- ・生徒任せにして、教員はノータッチではなく、側面的支援（見守り、アドバイス）をし、ともに頭を悩ますことにより、信頼関係が生まれると考える。